



## 神奈川県箱根町

# 地域の実情に即した「箱根教育」で 学力を高め、観光を担う人材を育む

国際的な観光地として知られる神奈川県箱根町では、2008年度の学校の大規模な統合再編を機に、5つの柱からなる「箱根教育」を打ち出した。7年間の取り組みで学力向上などの成果が見られる中、2015年度からは、園・小・中一貫教育の要素を本格的に取り入れるなど、教育活動の見直しを進め、将来の観光業を背負っていけるリーダーの育成を目指している。

### 神奈川県箱根町

◎ 1956 (昭和 31) 年に5つの町村が合併して誕生。町域のほぼ全域が国立公園に含まれ、自然や温泉、史跡に恵まれた国際観光地として発展してきた。現在は年間約 2000 万人が訪れており、就業人口の多くがサービス業に従事する。  
面積/約 92.86 km<sup>2</sup> 人口/約 1.3 万人 町立小学校/3校 町立中学校/1校 児童生徒数/596人  
教育委員会 所在地 〒 250-0311 神奈川県足柄下郡箱根町湯本 266  
電話 0460-85-7600  
URL [http://www.town.hakone.kanagawa.jp/hakone\\_j/ka/gakkou/](http://www.town.hakone.kanagawa.jp/hakone_j/ka/gakkou/)

### 教育長インタビュー

## 7年間の成果を基盤に 新たな「箱根教育」を推進

箱根町教育委員会 教育長 小林恭一

### 小・中学校の統合再編を機に 「箱根教育」がスタート

2006年に私が教育長に就任した時に課された大きな使命は、町内の小学校5校と中学校3校を、小学校3校・中学校1校に統合すると共に、箱根という地域に根ざした教育を展開させることでした。そのためにまず、2008年度の統合再編に向けて、保護者や地域住民と協議を行い、課題を洗い出し、どのような子どもを育てていきたいか議論を重ねました。

課題は山積みでした。まず、全体的に学力が低く、基礎・基本の定着にも課題が見られました。多くの子どもが家庭学習や読書をほとんどしておらず、基本的な漢字が書けない、かけ算が出来ないという児童生徒が少なからずいました。

また、地域への関心も乏しく、何と約6割の子どもが箱根に関所があったことを知りませんでした。祭りなどの地域行事に参加する子どもが少ないことも課題でした。

この協議の場でも出された要望や提



こばやし・きょういち 東京電機大工学部卒業後、湯河原町立小学校教員、小田原市立小学校教員を経て、1991年に箱根町社会教育主事に着任。神奈川県教育委員会義務教育課主幹、神奈川県立教育センター室長、足柄下教育事務所副所長、小田原市立豊川小学校校長、足柄下教育事務所長を経て、2006年から現職。

案をベースに、町長の意向や教員間で交わされた議論などを踏まえて、2007年4月に「統合後の教育方針」を策定しました。以降、これを土台にした「箱根教育」を中心に据えて、毎年、「箱根町教育方針」を打ち出し、推進しています。

### 「箱根教育」の成果が 少しずつ表れ始める

箱根教育は、箱根町の子どもたちに育まなければならない力を基に作られた教育内容で、①地域教育、②箱根ミニマム（基礎・基本の定着）、③情報教育、④国際理解教育、⑤心の教育の5つで構成されます。これらを町全体で継続的に推進しました。

例えば、2008年度に始まった「箱根ミニマム」は、各学年で最低限身に付けておきたい内容を提示し、定期的に学力調査を実施するものです。これらの施策の成果として、文部科学省「全国学力・学習状況調査」のA問題の平均正答率が、全国平均並みに向上しました。家庭学習時間にも改善が見られます。

また、読書量が少ないという課題を受け、2010年度に「箱根子ども図書銀行」を始めました。これは、児童生徒の読書量をポイントに換算し、1人当たりの平均ポイント数に応じて、学校が図書を追加購入できるというシステムです。その結果、読書時間も伸び、小学生の半数以上、中学生の4割が毎日30分以上本を読み、1～2時間読書する生徒数も全国平均の2倍を上回りました。

更に、「箱根を知り、箱根を語る子の育成」を目指す地域教育は、豊かな地域素材を活用して活発に行われています（図1）。その結果、子どもの地域への関心も高まり、9割以上の小学生、6割以上の中学生が地域行事に参加するようになりました。

図1 地域教育における地域素材の活用例

学年	単元名	教科	地域素材	教材等	
小学校	1	はこねかるたをつくろう	国語	箱根に関する言葉	箱根子どもかるた
	2	おもちゃフェスティバルをひらこう	生活	身近な自然	おもちゃまつりの思い出、動くおもちゃ
	3	長さははかるう	算数	学校の周り	湯本地区絵地図（自作）
	4	安全なまちをめざして	社会	地域の道路標識や設備、仙石原駐在所	道路標識や設備の写真、警察官へのインタビュー
	5	箱根十二景	図工	箱根の風景	浮世絵、絵葉書、写真、ガイドブック
	6	土地のつくりと変化	理科	早雲公園の地層	サメの歯の化石（新聞記事）、地層写真
中学校	1	美術館へ行こう	美術	箱根の美術館	資料集「バプロ・ピカソ」「美術館へ行こう」
	2	地域理解～鎌倉体験学習を通して	総合	鎌倉市の企業、商業施設、役所など	インターネット資料、鎌倉市のガイドブック
	3	プロジェクト学習	総合	町内体験先各施設（箱根老人ホーム、箱根町社会福祉協議会地域包括支援センターなど）	協力団体による講義、体験など
3	食事のマナー（富士屋ホテルテーブルマナー教室）	家庭	宮ノ下富士屋ホテル	ホテル内見学、箱根ロータリークラブとの懇談、テーブルマナー教室	

\*箱根町教育委員会提供資料を基に編集部で作成

### 「箱根教育」を全体的に見直し 学校ごとの特色化を推進する

これまで多くの改革を進めてきましたが、ようやく折り返し地点に到達したところだと捉えています。今後、教育改革を進める上で軸となるのは「一貫教育」です。

そこで、2015年度に施設分離型の園・小・中一貫教育を導入するのを踏まえて、箱根教育の内容を全面的に見直しました。その際、①箱育（地域教育）、②知育（学力）、③徳育（心の教育）、④体育の4つを柱に据え、これらを「共有」と「個性化」に分けて取り組みを進めています。

まず「共有」では、園・小・中で教育目標を一本化し、一貫教育として共通の取り組みを決めました。具体的には、これまでも行ってきた箱根ミニマムや、園から中学校まで一貫した心の教育（箱根ハートフルプログラム）などがあります。

一方、「個性化」は、各校が他校にはない特色を出すための取り組みで

す。例えば、「学力ミニマム」として、各校が独自の学力目標を設定することが考えられます。教育内容を柔軟に設定できるようにしたのは、学校ごとに地域性や課題が異なるためです。例えば、町内の湯本小学校では、児童の読書量に課題があったことから、読書活動に力を入れています。

そうして、「この学校ではこんな学力が付く」「こんな授業が受けられる」といった得意分野が育てれば、出前授業を通じて他校に広げたり、他地域からの入学希望者が増えたりすることも考えられます。5年後をめどに、このような特色のある学校づくりを実現していきます。

更に、観光スポットによっては観光客の半数以上が外国人という状況から、国際理解教育にも力を入れ、小学1年生から導入しています。また、地域教育でも、「観光」の視点から「総合的な学習の時間」の見直しを行っています。これらを通じて、未来の観光を背負っていけるリーダーを育てていきたいと思っています。

## 教育委員会の取り組み

## 観光地などの地域素材や園・小・中一貫教育を生かし、充実したプログラムを展開

## 特色ある地域教育と「箱根ミニマム」

国際観光地である箱根町には、観光業に携わる家庭が多い。そのため、グローバルな視点から地域の課題を解決する力を備えた、地域の観光業を担う人材の育成は、地域の大きな願いだ。「地域を愛し、幅広い国際性と社会性を身に付けた人間性豊かな心、温かい箱根人の育成」という町の教育の指針は、そうした実情に基づいている。ここでは、地域の思いを実現するための「箱根教育」(図2)について具体的に見ていこう。

まず、**地域教育**では、歴史が古く、自然に恵まれた地域性を生かした教育を展開する。生活科や「総合的な学習の時間」(以下、総合学習)はもちろん、教科学習でも地域の素材を教材に活用している(P.5図1)。例えば、箱根町教育委員会で作成した箱根町の動植物などの自然環境をま

とめた資料は、小学校の理科の授業で活用している。同様に、6年生の社会の授業では、独自のテキストを用いて、箱根の歴史を詳しく学ぶ。

小学校で行う関所に関する学習、中学校で行う火山の学習では、郷土資料館や神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員が授業を担当する。更に、町内に数多くある美術館を生かして、中学1年生が夏休みに美術館で作品の鑑賞を行う。

**箱根ミニマム**は、基礎・基本の定着に大きな課題が見られたことから導入した。年度初めに、町教委作成の漢字と計算の問題を各校に配布しておき、年3回、その中から出題する形で基礎学力の定着度を調査する。

「問題の活用法は各校に任せており、日々の授業や家庭学習の課題として取り組む例が見られます。ここ数年で、『全国学力・学習状況調査』や神奈川県での学力調査の結果が上昇しているのは、箱根ミニマムによる基

礎力の底上げが大きな要因と捉えています」と、佐藤昌宏指導主事は語る。

更に、2013年度には「箱根ミニマム チャレンジ」も始めた。各学年で確実に身に付けてほしいテーマを全校共通で1つ設定し、毎年2月に調査するものだ。例えば、小学2年生は「かけ算九九」、小学5年生は「都道府県名」、中学2年生は「元素記号・化学式」をテーマとしている。

## 12年間一貫で豊かな心を育む「箱根ハートフルプログラム」

**情報教育**は、小学1年生から体系的に行う。小学校では、町教委で情報リテラシーと情報モラルの育成を柱として作成した指導案を用いて、生活科や総合学習の時間に取り組んでいる。小学6年生の最後に、さまざまな学校行事から題材を選んで新聞を作成し、情報収集力や活用力を高めようとしているのが特徴だ。

**国際理解教育**では、外国語活動に重点を置く。年間に小学1・2年生は15時間、小学3・4年生は18時間、小学5・6年生は30時間、更に、中学校の各学年は35時間を確保し、ALTによる英語活動を実施している。

「同じALTが小・中で指導しているため、小学校から中学校への接続がスムーズで、英語嫌いの子どもの少ないことが利点です。小学1年生からなるべく英語のみで指導してもらおうようにしているため、高学年になると、かなり英語が理解できるようになっています」(佐藤指導主事)



箱根町教育委員会  
学校教育課長  
**石川憲一**

いしかわ・けんいち

「常に『基本』を大切に  
して、現場の先生方が仕事  
をしやすくなるような支援に  
全力を注ぐ」



箱根町教育委員会  
指導主事(非常勤)  
**佐藤昌宏**

さとう・まさひろ

「恵まれた自然環境の中  
で、周りの人と共により良  
く生き、郷土を大切にす  
る子どもを育てる」



箱根町教育委員会  
指導主事  
**浅川能之**

あさかわ・よしゆき

「自分自身を信じられる  
ように努力し、学ぶ意欲  
を大切にす支援をすべ  
ば、子どもは必ず伸びる」



箱根町教育委員会  
指導専任主事  
**石井ちかり**

いしい・ちかり

「人は人の中で育つ。人  
と人との触れ合いを大切  
にする」

図2 「箱根の就学前・小・中学校プラン（箱根教育）」（抜粋）

		一貫教育						
学年	地域教育	箱根ミニマム (国語・算数・数学)	情報教育	国際理解教育 教育（英語）	心の教育			
		・読み聞かせ			学級活動など	箱根ハートフルプログラム		
就学前					◎学校版「おもてなしの心」	・自尊感情を高める（ベースはオランダ「ピースフルスクールプログラム」）		
小学校	1年生	・箱根子どもかるたをたのしもう ・マスの稚魚の放流	生活	◎各学年で習得すべき最低限の技能	◎各学年 7～10時間程度	ALT派遣（15～30時間）	「豊かな自分づくり」 「友だちづくり」 「仲間づくり」	
	2年生	・箱根子どもかるたをたのしもう	生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き</li> <li>計算</li> <li>チャレンジ</li> <li>読書（箱根子ども図書館）</li> </ul> ◎各学年達成度調査 町独自調査（年3回）	・2分の1成人式で将来の自分を発表	「ようこそ箱根に」を含む	・温かな心「ようこそ」 ・親切な心「どうぞ」 ・いたわる心「どうしましたか」 ・奉仕の心「お手伝いします」 ・感謝の心「ありがとう」	を学ぶ（ベースは川崎市「かわさき共生*共育プログラム」）
	3年生	・火事からまちを守るには ・ごみをなくそう ・水を大切に ・ふるさとをゆたかに ・みんなでさがそう昔のくらし	社会					
	4年生	2分の1成人式	総合					
	5年生	キャリア教育 ・自然災害から暮らしを守るには	総合 社会					
	6年生	キャリア教育 ・マスの稚魚の放流	総合					
・箱根の歴史		社会						
・箱根八里		音楽						
中学校	・みんなの願いと政治の動き	社会	技術・家庭科での指導	ALT派遣（35時間）				
	・美術館へ行こう	美術						
	1年生	・火山					理科	
	・職場体験	総合						
	2年生	・身近な地域の調査					社会	
		・職場訪問・体験（鎌倉）					総合	
3年生	・森林浴ウォーク	総合						
	・町の財政	社会						
	・テーブルマナー	家庭						

\*箱根町教育委員会提供資料、取材を基に編集部で作成

心の教育では、2015年度に「箱根ハートフルプログラム」の試行を始めた。園・小・中の12年間の系統的なプログラムで、学級活動などに実施している。どの学校も子どもの数が少なく、人間関係が一度崩れると行き場を失いやすいことから、互いの違いを認めて生活する力の育成をねらいとする。

先進事例を研究したところ、荒れた状態から立て直しを図るという背景や課題意識が共通だったことから、自尊心や自制心、共感力を育てるオランダの「ピースフルスクールプログラム」と、共生する力を高める神奈川県川崎市「かわさき共生\*共育プログラム」をベースとして、独自にプログラムを作成した。現在、各校でプログラムを試行しながら完成形を目指している。

「例えば、幼稚園では表現を通して遊びながら『感情』を学びます。ま

た、小・中学校では、グループワークを通して自己開示の方法などを学びます。12年間を通して心を育むことが目的なので、2016年度には認定こども園や保育所にも広げ、園・小・中へとつながるような取り組みにしたいと考えています」と、石井ちかり指導専任主事は説明する。

### 相互訪問授業などで学校間交流を活発化

更なる学力向上を目指し、2014年度からは各校の研究主任による研究主任部会での研究も進めている。浅川能之指導主事はこう説明する。

「研究テーマは、2014年度は『課題提示』、2015年度は『学習の振り返り』と設定しました。研究授業などを通して、各教員の意識を共通化すると共に、授業のユニバーサルデザイン化も進めています」

町内の学校間交流も活発だ。中学

校の音楽・美術などの教員が小学校で授業を担当したり、中学校の合唱コンクールで小学6年生が中学生と一緒に合唱したりしている。

これらの施策の実現に向けては、町教委も予算確保の面でバックアップしている。学校教育課の石川憲一課長は次のように話す。

「まず各校の希望予算を早めに提出してもらい、それを基に学校を視察し、意見を聞いて予算案をまとめることで、財務当局に対して説得力のある説明をしています。更に、国や県の補助金の積極的な活用にも努め、アンテナを高くしています」

2016年度は地方創生交付金を活用した、ICT機器を活用した授業づくりや、外部英語検定の導入を検討中だ。これらの導入で箱根教育を更に推し進め、地域に誇りをもち、グローバルに活躍できる人材を育てていきたいと考えている。

## 小学校での実践

# 「箱根教育」をベースに 学力向上や読書推進など、 特色ある教育を展開

## 箱根町立湯本小学校

◎ 1872 (明治5) 年開校。目指す学校像の1つに「保護者や地域と連携し、温かい教育環境の学校」を掲げ、地域ぐるみで子どもを育てる教育活動を充実させている。

校長 橋口裕子先生

児童数 94人 学級数 8学級 (うち特別支援学級2)

住所 〒 250-0311

神奈川県足柄下郡箱根町湯本 399

電話 0460-85-5414

URL [http://www.town.hakone.kanagawa.jp/hakone\\_j/kurashi/school/yumoto\\_es/](http://www.town.hakone.kanagawa.jp/hakone_j/kurashi/school/yumoto_es/)



### 基礎学力の定着に向け 家庭学習の習慣化に注力

箱根の玄関口、箱根湯本駅近くにある箱根町立湯本小学校は、児童数94人の小規模校だ。

豊かな自然環境の中で育つ子どもたちは、素直で真面目な半面、人数が少ないために人間関係が固定されやすく、競争意識にやや欠けることが課題だ。また、保護者の多くが観光業に従事しているため、放課後や週末の学習支援が難しく、家庭学習習慣が定着しづらいことが、学力面の課題につながっていた。

そうしたことから、同校では学力向上に向け、さまざまな活動に精力的に取り組んでいる (図3)。

2010年度に始めた「湯本楽習塾」は、地域の教員経験者を講師とした放課後学習教室だ。「学習内容について質問しづらい家庭環境の中で、子どもたちから『もっと勉強したい』

という声が挙がったことを受けて、スタートしました」と、橋口裕子校長はそのねらいを説明する。

対象は高学年のみで、参加は希望制だが、6年生は21人中17人、5年生は10人中3人が参加 (2015年度)。教科を算数に絞り、百ます計算などの基礎的な学習に取り組み、終えた

ら宿題に進むようにしている。教務主任の岩瀬正樹先生は、子どもの学習の様子を次のように語る。

「百ます計算は、掛かった時間を毎回記録して自分の力の伸びを意識させ、達成感をもたせるようにしています。その積み重ねで学習意欲も高まり、基礎・基本の定着が進みました。今は次の段階として、多様な解き方が出来る面積の問題など、思考力を要する課題も多く取り入れています」

講師が適度にヒントを与えながら取り組ませることで、子どもは時折つまづきながらも、考えることを楽しむ姿が見られるという。

一方で、自主的に家庭学習に取り組む姿勢を育てる指導にも力を入れる。具体的には、1年生は毎日宿題を出す、学年が上がるにつれて宿題の量を減らし、自主学習の量を増やすように指導している。自主学習ノートは毎日提出させ、担任が励ましのコメントを添えて返却する。

更に、玄関脇の廊下に算数の自主学習用のプリントを置き、下校時に持ち帰って、家で取り組むように呼び掛けている。翌日、廊下にあるポストに提出すると、教務主任が採点し、担任経由で返却される仕組みだ。

#### 図3 湯本小学校 2015年度 教育目標

学校教育目標 郷土を愛し、学ぶ意欲を持ち、心豊かで、たくましく生きる児童の育成

##### 箱育 地域を大切にした特色ある学校づくり

◎地域の教育力を生かした授業連携 (生命の星・地球博物館や美術館の効果的活用) ◎地域とかわる活動の充実 (おもてなし清掃・おもてなし活動) ◎園・小・中一貫教育の推進 ◎地域の実態を踏まえた防災教育、安全教育の充実

##### 知育 確かな学力づくり

◎個に応じた指導の充実 (少人数・個別指導)  
◎基礎・基本の定着 (箱根ミニマムの活用)  
◎読書活動・読み聞かせの推進 ◎学習意欲につながる体験学習 ◎自主学習の習慣化

##### 徳育 生きる力をつけ、豊かな心を育む

◎おもてなしの心の日常化 (あいさつ運動や感謝の活動) ◎道徳教育の充実 (全校道徳の実施)  
◎心の教育の充実 (箱根ハートフルプログラムの計画的実践) ◎本物との出会いや感動体験 (ようこそ先輩・命の授業)

##### 体育 健康教育の推進及び体力づくり

◎スポーツテスト結果の活用 (学校保健委員会との連携) ◎縦割り班活動の充実 ◎安全教育と食育の推進

\*湯本小学校提供資料を基に編集部で作成

「箱根ミニマム」も、基礎・基本の定着に向けて大いに活用している。まず、学期の初めに箱根ミニマムの学習範囲のテストを実施して、児童それぞれの課題を把握。その上で、毎週木曜日の始業前の15分間を利用して箱根ミニマムの問題に取り組み、担任が個別に指導している。

学力向上に向けた取り組みを進めるにつれて、子どもの中に「やれば出来る」という自信が芽生え、自ら家庭学習に向かう姿勢が見られるようになってきた。文部科学省「全国学力・学習状況調査」の算数のA問題では正答率が徐々に上がり、家庭学習時間も増えるなど、目に見える成果が表れてきている。

### 動線を意識した「玄関文庫」で多くの子どもが読書好きに

学校独自の取り組みとして特徴的なのは、読書の推進だ。児童数の減少で使われなくなった下駄箱スペースを利用し、「玄関文庫」を設置した(写真)。絵本や小説をはじめ多ジャンルの本を並べておき、子どもに自由に持ち帰るように促している。

玄関文庫は、あくまでも手軽さを重視し、貸し出しチェックはせず、必ず家で読み、翌日に返すルールとしている。そのため、ここにはリサイクル本などを置き、図書室の蔵書とは別に管理している。気軽にラン



写真 下駄箱のスペースを活用した「玄関文庫」。子どもの興味を引くように、レイアウトも工夫している。図書委員会が管理し、教員の薦め本を置くこともある。

ドセルに入れて持ち帰れるように薄い本を選ぶなどの工夫もしている。

「元々、読書が好きなお子どもは積極的に図書室を利用しますが、そうでない子どもも表紙が目止まるように、動線を意識しました。毎日必ず利用する玄関に書棚を設け、気軽にさっと本を持ち帰れるようにしています」(岩瀬先生)

また、机のフックに読みかけの本を入れるバッグを下げおき、休み時間や給食の待ち時間などに読書をする活動も行っている。本だけでなく、辞書も入れるように指導したところ、分からない言葉を積極的に調べる習慣が定着したという。

ほかにも、町全体の取り組みとして、月1回巡回する移動図書館もある。これらの読書推進の取り組みによって、今では多くの子どもに読書習慣が定着している。

「本を読む楽しさを知ってくれたことを、何よりうれしく思います。読む力も高まり、隣接する認定こども園で読み聞かせをする5年生の音読を聴いていると、以前に比べて格段に上達したのを感じます」(橋口校長)

### 「観光」の視点から地域教育を見直す

箱根教育の一環として、地域教育にも力を注ぐ。例えば、4年生の社会科の授業では、地元の老舗旅館・富士屋ホテルの従業員から箱根の歴史について学んだり、美術館を活用した授業を実施したりと、地域と連携した教育活動を進めている。

現在は、「総合的な学習の時間」を使って、地域教育をより一層充実させようと、2016年度からの実施を目指して、「観光」の視点から学習内容を見直している。例えば、高学年では、箱根の歴史や伝統文化、観光資源について学んできたことを生か

して、箱根をPRする観光パンフレットを作成したり、低・中学年では、地元製品を生産・宣伝・販売したりするなどの活動を構想中だ。

「地域の素材を題材とすることで、もっと箱根を知り、更に好きになってほしいというねらいと、探究型学習のねらいの双方を達成したいと考えています」(岩瀬先生)

学校間交流も盛んで、研究主任部会での研究も、教員の指導力向上に役立っている。また、小・中の教員が互いの公開授業を見学し、意見を交わし合う中で、それぞれの指導にも変化が表れている。

「中学校の先生からアドバイスを受けてたり、中学校の授業を見たりすることで、先を見通した指導が出来るようになりました」(橋口校長)

ほかにも、中学校の音楽科教員が、小学校高学年の音楽の授業を指導したところ、子どもの歌唱力が目に見えて高まり、小学校教員も学ぶことが多かったという。今は学期に1回、国語や理科でも、中学校の教員に出前授業をお願いしている。

「自分の頭で考え、発信し、行動できる子どもを育てたいと思っています。そのために、今後も引き続き、園・小・中、更に地域が一体となった教育を進めていきます」(橋口校長)



箱根町立湯本小学校  
校長

橋口裕子

はしぐち・ひろこ

「教師が限界を定めず、子どもが自分の可能性を見付けられるように支えていきたい」



箱根町立湯本小学校

岩瀬正樹

いわせ・まさき

教務主任。「子どもが自信をもって自分を表現できる力を育てるために、失敗を恐れずにチャレンジさせていきたい」

## 中学校での実践

# 「総合的な学習の時間」で 地域教育と英語を充実させ、 地域に貢献できる人材を育成

## 箱根町立箱根中学校

◎ 2008 (平成 20) 年、3つの中学校が統合して開校。美術館や温泉を目指す観光客でにぎわう、箱根登山鉄道の彫刻の森駅の近くにある。合言葉は「箱根を愛し かしく やさしく たくましく」。

校長 二見栄一先生

生徒数 212人 学級数 8学級(うち特別支援学級2)

住所 〒250-0407

神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平<sup>にのひら</sup>1154

電話 0460-82-3000

URL [http://www.town.hakone.kanagawa.jp/hakone\\_j/kurashi/school/hakone\\_jhs/](http://www.town.hakone.kanagawa.jp/hakone_j/kurashi/school/hakone_jhs/)



### 小学校との系統性を 強く意識した教育を展開

箱根町立箱根中学校は町唯一の中学校だ。中学校は元々4校あったが、統合再編が進み、2008年度に同校のみとなった。園・小・中一貫教育を掲げる町の方針の下、小学校からの教育活動の系統性を意識して、地域の良さを理解して広く発信できる生徒の育成に努めている(図4)。

箱根教育の柱の1つである地域教育には、全学年で「総合的な学習の時間」(以下、総合学習)の週1コマを充てる。小学校からの積み重ねを生かし、更に町の良さを学び、それらを基に、町の活性化に自分たちが貢献できる行動を具体的に考え、実行するプロジェクト学習を行う。

1年生では、キャリア学習を兼ね、町内の観光協会や行政施設で職場体験をして地域理解を深める。続く2年生では、同じく観光業が盛んな鎌

倉市で職場体験を行う。「鎌倉市と箱根町とを比較する中で、箱根の良さを改めて発見し、町を更に良くするための課題や展望をもたせることがねらいです」と、二見栄一校長は話す。

3年生では、グループごとに高齢者対象のイベントを企画し、施設を

訪問して実施する。

更に、地域社会への還元のため、夏休みに「ふれあいボランティア」を行う。希望制だが、毎年、9割以上の生徒が、保育や学習支援、清掃、イベント支援などに参加するという。

地域教育の一環として、教科学習でも地域素材を教材に活用している。例えば、1年生の美術では、彫刻の森美術館で学芸員に美術館利用のマナーを学んだ後、各自が夏休みに町にある美術館のうち1つを訪問して作品を鑑賞する。また、3年生の家庭科では、富士屋ホテルで会食をし、正式なテーブルマナーを学ぶ。

### 町の特徴を意識して 英語力の育成を強化

国際理解教育の一環として、英語教育にも力を注ぐ。2・3年生の総合学習週2コマのうち1コマを国際理解教育に充て、ALTと英会話中心の活動を行う。2015年度には、英語と総合学習共通で用いるCAN-DOリストを作成し(図5)、学年間の英語学習の系統性をより高めた。英語科担当の氏家はずみ先生はこう説明する。

「箱根町には外国人観光客が多く

図4 箱根中学校 2015年度 学校経営方針

#### 学校教育目標

箱根の郷土を愛し、確かな学力を身に付け、健康で豊かな心を育み、地域に貢献できる生徒の育成

#### 箱育 地域を大切に、特色ある 学校づくりに努める

◎箱根を題材とした「プロジェクト学習」の推進及びボランティア体験活動の充実 ◎園・小・中一貫教育の推進(学校行事連携・生徒活動を通じた連携)  
◎開かれた学校づくり(情報の発信と地域教育力の活用) ◎安全・防災教育(火山活動を想定した避難訓練及び講話)

#### 知育 確かな学力を育む

◎分かる・楽しい授業の実践 ◎生徒による授業評価の活用 ◎「箱根ミニマム」の徹底と活用 ◎家庭学習の定着 ◎支援教育の推進と充実 ◎国際理解教育と言語活動の充実

#### 徳育 自他の命を大切に、 豊かな心を育む

◎生命の尊重(いじめのない学校づくり)  
◎望ましい集団づくりを通して他者を思いやる心の育成(箱根ハートフルプログラムの活用)  
◎あいさつ運動の促進 ◎「おもてなしの心」の日常化(礼儀作法、思いやり、感謝の心)

#### 体育 健康教育の推進

◎主体的に健康管理が出来る生徒の育成(早寝、早起き、朝食の摂取) ◎体力増進を図る生徒の育成(スポーツテストの活用、休み時間を活用した体力づくり) ◎保健教育の充実(薬物乱用防止、食育)

\*箱根中学校提供資料を基に編集部で作成

図5 CAN-DO リスト (3年生のみ抜粋)

CEFR <sup>※</sup> レベル	Speaking		Writing	Listening	Reading
	やりとり	発表			
B.1.2	日本文化や自分の今後の抱負などについて、まとまった内容でスピーチをすることができる。	日本文化や自分の今後の抱負などについて、まとまった内容でスピーチをすることができる。身近な話題について、問答をするなどして、会話を続けることができる。	日本文化の紹介文や自分の中学校生活と今後の抱負について、自分の考えなどが読み手に正しく伝わるよう、文章の構成を意識して5文以上で書くことができる。	日本文化や友だちのスピーチを聞いて、概要や要点を整理したりして、内容や話し手の考えや意向を正確に聞き取ることができる。	日本文化などの記事や実在の人物についての伝記、説明文などを読み、その内容や大切な部分を整理しながら正確に読み取ることができる。
具体的な活動例	Lesson5/ Mini-project	Mini-project	Mini-project	Mini-project	Mini-project

\*箱根中学校提供資料を基に編集部で作成

訪れ、生徒とも多くの接点があります。そこで、あいさつや道案内を英語でスムーズに出来るようになることを3年間の到達目標に掲げ、コミュニケーション能力の育成を重視して、CAN-DOリストを作成しました」

英語4技能の中でも特に力を入れるのが、スピーキング力の育成だ。現在は、CAN-DOリストを意識して、1年生は1分間、2年生は1分30秒間、3年生は2分間を目標に、1つのテーマについて英語のみで対話するペアワークを、毎授業で実施するよう試みている。その到達度を測るため、学期に1回、ALTと1対1で30秒ほど会話するインタビューテストを行い、評価に反映している。

「小学校の時から同じALTに学んでいることもあり、英語を使うことへの抵抗感は少なく、授業もスムーズです。現在はalmost all Englishで授業を行い、試行錯誤しながらall Englishの授業を目指しています。更に、小学校にも共通したClassroom Englishを授業で使用してもらうように働き掛けて、小中連携を図っています」(氏家先生)

町では2016年度に英語の外部検定試験の導入を検討中で、それが実現した場合は、総合学習のうち更に年間5時間程度を検定の実施や振り

返りに充てることも想定している。

### 学校の「個性化」として 学力向上の取り組みを推進

学校独自の取り組みとして、学力向上策も充実させている。特に力を注ぐのが家庭学習習慣の定着だ。

現1年生から始めた「家庭学習ノート」では、1週間分の課題プリントを配布し、その中から毎日1ページ分(漢字5語、計算問題3題、英単語5語)に取り組む。生徒は毎朝提出し、教員がチェックして返却。そして、毎週の確認テストでプリントの内容を出題し、更に学期に1回、拡大版確認テストを行って定着度を測る。

「家庭学習ノートは、家庭学習習慣の定着を第一の目的として、15分程度で終わる量にしています。毎日行うことを意識付けるため、計算で満点だった生徒の名前やクラスの提出状況を掲示し、保護者に提出状況を伝えていきます。今では、ほぼ全員が毎日提出し、家庭学習が習慣化しつつあります」(氏家先生)

他にも、元教員によるアフタースクールや、夏休みの部活動後に1時間の学習時間を設けるなど、学習時間の確保に工夫を凝らしている。

教員の指導力向上に向けた取り組みにも力を注ぐ。全教員が年1回は

公開授業を行い、学年職員全員で指導案検討会と事後検討会を行う。生徒にも授業評価やアンケートを行い、他学級の生徒数人にも公開授業を参観してもらっている。研究推進委員長

の嶋田千佳先生は次のように語る。「公開授業後、『めあては分かりやすいか』『授業の内容は理解できたか』といったことを生徒に聞き、授業改善に生かしています。また、小・中教員の相互訪問授業も行っています。授業を互いに見合うことで徐々に共通理解が進み、自然と互いの指導方法を取り入れるようになりました」

授業規律や子どもがルールを守れなかった時の対応についても、連携して同じ対応をすることで、小・中のスムーズな接続に努めている。

『「全国学力・学習状況調査」の結果は年々上昇し、生徒の郷土愛や総合学習に対する評価は全国平均に比べて極めて高い状況です。これからも、生徒全員が学力的にも人間的にも大きく成長できる教育を追究したいと思います」(二見校長)



箱根町立箱根中学校  
校長

#### 二見栄一

ふたみ・えいいち

「授業を大切にし、研究意欲にあふれ、きめ細かに生徒に接し、生徒と共にある心豊かな教師を目指す」



箱根町立箱根中学校

#### 氏家ほずみ

うじいえ・ほずみ

地域連携部リーダー。「民族や言語などの違いを受け入れて、世界中の人とコミュニケーションを取れる生徒を育てる」



箱根町立箱根中学校

#### 嶋田千佳

しまだ・ちか

研究推進委員長。「子どもたちには常に笑顔で接する。箱根を世界に発信できる生徒を育てる」

※ CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠の略称で、欧米で広く導入されつつある語学のコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格のこと。大まかなめやすでは、B1は高校生レベル、B2は高校生～大学生レベル。